

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援 ほしのごキッズ	公表日	令和6年 12月 25日
------	----------------	-----	--------------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		東京都の設備基準を超える広さを確保しており、運動の活動の際には待機場所と運動場所に分けることで衝突を防ぐなど安全面を考慮している。また机上での活動も模擬授業の部屋とは別に小集団を2〜3つ配置できるスペースを確保している。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		児童の人数や発達の段階に応じた職員の配置を行っています。また、専門性や経験年数等を考えた職員の配置についても行っている。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		児童がつかず恐れのある段差はほぼなく、床にはマットを敷くことで転倒時等の怪我防止対策を行っている。また壁にはコーナーガードやマットを置くことで衝突時の安全に留意している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日掃除や消毒を徹底して行っている。また、食事前（おやつ前後）には机をアルコールで拭き清潔を保っている。また空調や換気を細目に行いながら、児童の状態に応じた調整を心がけている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		児童の体調不良時や、児童のクールダウンが必要な場面では仕切りを作る等、状況に応じた環境設定を行っている。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		毎日のミーティングで振り返りや目標設定を行っている。また、半年に一度自己評価を行っており、自らの業務に対する目標設定や振り返りの機会を設けている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年実施している。今年は書面でも実施しており、今後についても保護者の方が取り組みやすい・意見が発信しやすい形での実施を検討していく。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日のミーティングだけでなく、療育後の共有を行う際に児童の様子を振り返り意見を交換する場を設けている。また業務を円滑に進めるため職員間で話し合い様々な方法を模索しながら取り組みやすい方法を検討している。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		本社職員や姉妹教室の職員が巡回を行い、改善点についてアドバイスをいただいている。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		必要な外部研修を受講し、各職員に共有している。また、療育内容についての内部研修や専門職会議等も法人全体で実施している。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		5領域に基づき作成しており、HPで公表している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		入所時には保護者の方と課題や目標を話し合いながら、アセスメントを実施している。また半年に一度モニタリングを行ったり、療育後にフィードバックの時間を設けることで都度保護者の方のニーズを把握し反映することができるよう努めている。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援計画の作成時には児童発達支援管理責任者だけでなく教室に在籍する全職員で検討を行っている。また、必要に応じて法人内の専門職へも相談、評価をしてもらえる機会を設定している。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童発達支援計画作成後は職員間で共有をし、全職員が児童の課題を把握するようにしている。また計画に沿った支援を行うことができるようミーティング内でその日の活動について話し合っている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		契約時から定期的にアセスメントシートを更新して頂いているため、最新の情報のもと支援を行っている。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		「児童発達支援の提供すべき支援」の項目を軸に作成している。「発達支援」のねらい及び支援内容に基づいて生活や運動、コミュニケーション、認知機能などの要素を取り入れている。個々の特性や情緒面も考慮して具体的な支援内容を設定している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		実施内容は職員間で共有をしている。実施後に課題が見つかった際には職員間で共有をし、改善策を話し合い次の活動に繋げていくことができるようにしている。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		児童の課題や支援目標に沿った取り組みを行っており、活動の内容が固定化されないよう変化を持たせたり新しい道具を取り入れながら活動を行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		各児童の個別での課題、集団での課題の双方に焦点を置きながら児童発達支援計画を作成し支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎朝ミーティングを行い、児童の情報を共有することでその日の支援内容を考えている。また同じ職員が同じ児童だけを見るということがないよう役割分担を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		療育後には職員間でその日の児童の様子や活動を振り返る時間を設けている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎日、HUGにて一日の様子（個人の様子）と業務日報（集団の様子）を記録に残しており、個人の様子については保護者に確認をさせていただいている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に一度モニタリングを実施し、個別支援計画の見直しにより支援の方向性や課題を修正している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		どの職員でも対応できるよう、日々児童の状況理解についてはすり合わせを行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		幼稚園や保育園、相談支援事業所等と都度連絡を取り合いながら連携を図っている。また、姉妹教室（放デイ）もある為、継続的に支援することが可能となっている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		各園と電話での情報共有や、日程を合わせて園に訪問する機会・園の先生が見学に来る機会を設け児童の様子を見たとし情報共有をしており、支援について統一していけるよう話し合っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者より依頼があった際には就学支援シートの作成を行っており、学校と情報共有を行っている。	就学支援シートのついて知らない保護者もいるため、時期になったらお知らせをする。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターに訪問したり、研修に参加することで情報を得ている。	児童発達支援センターとの直接的な連携はまだ少ないため、連携を図っていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		幼稚園・保育園への見学・訪問や戸外活動を通して、地域の児童との関わりについて行っている。	正式に園と交流の機会は設けていない。園とほしのごで感染症の状況も加味しながら交流の機会についても検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々フィードバックの時間をうけてほしのごの様子とご自宅・園での様子の情報共有を行っている。また、状況や課題の変化についても聞き取りや共有を行いながら共通認識に繋げている。	時間の都合上フィードバックを受けることが難しい保護者に関しては、HUGで様子を確認してもらっている。また、情報共有についてもHUGを活用していつでも連絡ができるよう取り組んでいる。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		フィードバックや相談支援の時間に、解決に向けて一緒に考える場を設けている。また、自宅でも取り組めることについて口頭やHUGを用いて伝えている。	保護者の見学等の際、支援の工夫点等はお伝えしているが、今後は時間を長く設けて対応していく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学時や契約の際に説明している。変更があった際には、口頭と紙面の両方で説明し同意を得ている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		見学・契約時やモニタリング時に保護者の意向を聞きながら個別支援計画を立てている。また、半年に一度モニタリングを行っており、その際に個別支援計画の見直しを行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		保護者の方と情報のすり合わせを行い個別支援計画を作成している。また、作成後にも確認していただき共通の認識をもちながら、こどもの支援に繋げていけるようにしている。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		フィードバック時やHUGを用いて相談事に対する助言を行っている。また、じっくりと相談したい保護者の方には家族支援という形で相談する場を設けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		年に数回保護者会を実施している。姉妹教室とも合同で行うことで、就学後についてもさまざまな保護者・指導員と相談できる機会を設けている。姉妹教室で合同療育を行うこともあり、きょうだい同士で交流する機会もある。	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申し入れがあった際には、迅速に日程調整を行って対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		口頭だけでなく、HUGやSNS (Instagram・Facebook) を使用して情報発信を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		関連書類は鍵付き書庫内で保管している。また、データは外部から接続できないようになっている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		こどもに対しては、それぞれに応じた伝え方を模索し意思の疎通に繋げている。保護者とは、日々のフィードバックやお便り、HUGを用いて情報伝達や意思の疎通を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		夏祭りでは、地域住民も参加できる機会も設けている。コロナ感染が緩和してきたことで徐々にイベントごとを増やしていく。	
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルが策定されており、都度更新している。また、研修を行い職員の認識を深めるとともに発生を想定した訓練も行っている。
46		業務継続計画 (BCP) を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		策定を行っており、訓練にも取り組んでいる。	訓練は行っているものの、様々な場面を想定して行う必要があるため、定期的に行っていく。
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時にアセスメントシートに記載していただいでおり、半年に一度更新している。また、来所時やフィードバック時に、最近の状況についての確認や情報共有も行っている。	
48		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		おやつを提供があるため、アレルギーの確認は紙面、口頭両方で行っており、アレルギーがある児童に関しては持参する形を取っている。また、食事の際にはアレルギーのある児童と同じテーブルにしないなど、混合しないように注意をしている。	
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画については作成をしており、状況の変化に応じて、都度更新・修正を行うようにしている。	内容については定期的に検討・修正を行う必要がある。
50		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		保護者へ安全計画についての詳細は、伝えられていない。	周知できていない部分もあるため、今後お便りやHUGを用いて伝えていく。
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットがあった際には書類の作成を行い、公休だった職員も確認できるようにしている。また、毎日のミーティング時に情報共有と再発防止に向けて話し合っている。	
52		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修を受けた職員が教室内で共有する機会を設け、虐待防止につながるよう努めている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		契約時に同意書に基づいて同意を得ている。身体拘束を必要とする児童はいないものの、今後対象となるような児童がいた場合は、具体的記録も合わせて残していく。		